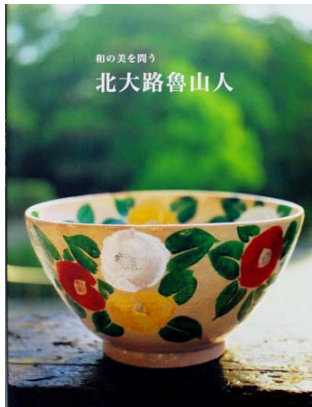


◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 何必館 京都現代美術館【京都・東区】(<http://www.kahitsukan.or.jp/frame.html>)

9月8日(金)～12月24日(日)



企画展： 生誕 140 年・和の美を問う 北大路魯山人展

本年は北大路魯山人生誕 140 年にあたります。京都上賀茂の社家に生まれ、書家、豪刻家として出発した北大路魯山人(1883～1959)は、陶芸をはじめ書・絵画・漆芸・豪刻・金工など、個性溢れる作品を数多く生み出しました。昭和 29 年にニューヨーク近代美術館で「魯山人展」が開催されたのをはじめ、国内外で多くの展覧会が開催され、魯山人の作り上げた美学は没後半世紀を経た今もなお、人々を魅了してやみません。本展では、厳選された作品約 100 点を、「陶」「書」「茶」「花」「食」の 5 つのテーマに分け、古材や更紗、根来などと取り合わせ展示致します。魯山人の作品は、「使う」ことで一層の輝きを放ちます。生涯をかけて日本の美と食を追求した魯山人の「和の美を問う」とい、これまでにない充実した展覧会になります。

2. 戸栗美術館【東京湯・渋谷区】(<http://www.toguri-museum.or.jp/tenrankai/index.php>)

10月6日(金)～12月21日(木)

企画展： 伊万里・鍋島の凹凸文様

本展ではやきものの表面に施された凹凸(おうとつ)の文様に注目します。凹凸文様は、画像はもちろん肉眼であっても絵付けによる表現に比べると視認しにくいもの。しかしながら、凹凸文様をあらわすための技法は、型の準備や、ヘラや鉋(かんな)などの工具の使用など、伊万里焼や鍋島焼の基本成形技法である轆轤(ろくろ)挽きだけでは完成しない、ひと手間もふた手間も掛けられ、高い技術力も要するものです。伊万里焼・鍋島焼あわせて約80点の作品展から、一見気づきにくい、しかし繊細な凹凸文様をご堪能ください。



3. 敦井美術館【新潟・中央区】(<https://www.tsurui.co.jp/museum/>)

10月10日(月)～12月16日(土)

企画展： 開館 40 周年記念 重文「彩磁禽果文花瓶」を展示 板谷波山展

開館 40 周年を記念して、陶芸家で初めて文化勲章を受章した板谷波山の名品 47 点を一堂に展示致します。また、当館所蔵・重要文化財の「彩磁禽果文花瓶」は 5 年振りの展示となります。崇高な雰囲気漂わせる波山の名品の数々をご鑑賞下さい。

3. 出光美術館【東京・千代田区】(<http://idemitsu-museum.or.jp/exhibition/schedule/>)

11月3日(金・祝)～2024年1月28日(日)



企画展： 青磁—世界を魅了したやきもの

若草色、碧緑色、天青色、橄欖(かんらん)色。青磁の色の違いを表すそれらの言葉は、作られた場所(窯)や時代の特徴を表しており、一言で青磁といっても実に多様です。中国で生まれた青磁は、シンプルな造形と艶やかな色調を融合させ、中国をはじめ、アジアから欧米まで、そして皇帝・貴族から一般の人々にまで受容されました。本展では、中国・越州窯や龍泉窯のほか、高麗や日本、さらには東南アジアなどの青磁も取りあげ、世界の人々を魅了した青磁の魅力に迫ります。

